



デザイン



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外18号です。表面は、リハビリ科からのお知らせです。裏面は、地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望へのお返事です。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)

リハビリテーション科より

～ 地域包括ケアシステムの中でリハビリが果たす役割について ～



理学療法士

高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることを目的とした“地域包括ケアシステム”の中では、当院リハビリテーション科は以下の2つの役割を担っています。

1つ目の役割は、地域住民の方々への直接的支援です。急性期病棟と地域包括ケア病棟“彩り”に入院中の患者さんへの支援の他、訪問リハビリ（試行的に開始したばかりで大きな声では言えません。今後に期待して下さい）と老健やましろの通所リハビリの利用者の方にも支援しています。



作業療法士

2つ目の役割は、山城南圏域地域リハビリテーション支援センターとしての間接的支援です。地域で活動されている多職種の方々に対する支援（リハビリ相談・研修会活動）や各市町村で行われる地域ケア会議への参加などです。

*

我々が、今後も地域包括ケアシステムの中で役割を果たしていくためには、多職種の方々の連携・協力がなければ成立しません。今後共ご協力よろしくお願い致します。

(リハビリテーション科 課長 岡村 孝文)



言語聴覚士



老健やましろのスタッフ

26名のスタッフで頑張っています。ご要望などがありましたらお寄せ下さい。

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その⑥

地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いた際、頂戴したご意見・ご要望と改善策をお知らせします。

介護者の都合で平日からの入院が難しいため、週末からの入院は可能でしょうか？（ケアマネ）

ご入院初日は患者さんにとって不安が大きく、また、週末は平日と体制が異なります。患者さんに安心して頂くためにも、平日にご入院して頂いています。ご理解頂きますようお願い致します。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

地域医療連携室より

～ カレーに例えると ～

平成26年8月に開設した地域包括ケア病棟“彩り”は8月で丸5年となり、6年目に突入します。この5年間は試行錯誤の連続でしたが、地域の皆さんからご紹介頂き、少しずつではありますが、地域包括ケアシステムの中での役割を果たせる病棟になってきているのではないかと考えています。今回は、“彩り”を支える仲間をカレーに例えて紹介させていただきます。お付き合い下さい。

*

まず、リハビリ科です。地域の皆様からのご依頼が多いのが、「リハビリ目的」での入院依頼です。いつも専門職の視点で患者さん、病棟を支えています。専門職としての意見は大変貴重。カレーで例えるならお肉、なくてはならない存在です。



次に、病棟Nsです。様々な目的で入院してこられる多くの患者さんを積極的に受け入れ、日々の看護にあたって頂き、いつも感謝しています。ありがとうございます。カレーに例えるならルーです。ルーがないとカレーとは言えませんから。

次は、大島先生です。受け入れに際して相談させて頂いているのですが、いつも優しく相談に乗って下さいます。カレーの中ではタマネギ。煮込むほど出てくる、その優しい甘さとまろやかさはカレーには必要不可欠ですね。

医事課です。コスト管理をしてくれています。少々地味ですが、カレーの中ではローリエ。縁の下の力持ちです。入れるとカレーの旨みがグッとUPします。

ソーシャルワーカーは、カレーで例えるならジャガイモやニンジン。存在感も残しつつ、肉（リハビリ科）とルー（病棟Ns）の間に入る調整役といったところでしょうか。

そして、中井院長です。この5年の間、当組合が果たす役割を誰よりも考え、我々職員が進むべき道へ導いて下さっています。カレーに例えると具材を入れる鍋でしょうか、すべてを包みこんでくれています。

お気づきかも知れませんが、どれ一つ欠けても美味しいカレーはできません。これからも仲間が手を取り合って、「美味しい！」「また食べたい！」と思っ頂けるカレー（地域包括ケア病棟）を提供したいと思っています。ご要望などがありましたらお気軽にお寄せください。お待ちしております。そして、今夜はカレーが食べたくなりませんか！？（地域医療連携室 室長 南出 弦）